

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103932		
法人名	株式会社ヒューマン・ネットワーク		
事業所名	介護支援センターながさき グループホーム桜木 2階		
所在地	長崎県長崎市桜木町3番25号		
自己評価作成日	平成26年7月23日	評価結果市町村受理日	平成26年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成26年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少しでも笑顔を増やしていただくために、歌レク等を多く取り入れるようにしています。 1階の認知症対応型デイサービスとの交流会を行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念である「愛と信頼、そして幸せ」を運営方針に掲げて、職員は家族と同じように愛情を持ち、利用者と信頼関係を築きながら、毎日楽しく暮らせるよう支援を行っている。リハビリや機能の低下防止の為、主治医に確認し、希望する利用者には訪問療養マッサージを取り入れている。職員の気づきや意見をいつでも記入出来るシートを準備しており、サービス担当者会議時にシートの記録を活用している。常勤のケアマネジャーを配置しており、利用者、家族との会話や連絡、また、職員の意見要望を抽出しやすく、より良い介護計画の作成に繋がっている。年2回職員に個人面談を実施し、目標や振り返り、要望等の意見を聞き取り事業所の質の向上に繋げている。法人は今後、地域の居宅支援の為に認知症のディサービス事業を併設し、小規模多機能型居宅介護事業所を増築する予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をリビングや制服、社用車に掲示しており、職員がいつでも確認できるようにしています。	法人理念である「愛と信頼、そして幸せ」を運営方針に掲げて、家族と同じ愛情で、利用者と信頼関係を築きながら、毎日楽しく暮らせるように支援を行っている。法人内では新人・中堅職員向けの研修があり、その中で理念の周知と共有が行われている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ参加し、行事等の案内をさせていただいています。また地域の老人会の担当者宅を訪問し広報紙を配布しています。秋には祭りを開催し、地域の活性化を図っています。	広報誌にはシリーズ化した「認知症について」を掲載し、認知症に対する情報を地域に発信している。グループホーム主催の秋祭りは地域住民の楽しみとなっている。法人は今後、ディサービス事業を併設し、地域の居宅支援に向けて小規模多機能型居宅介護事業所を開設する予定である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や自治会を通して、地域の方に自社サービス等の説明をしています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を開催し、入居者の状況、行事等の報告、参加依頼を行っています。また、参加者の方には議題毎に意見を聞く時間を設け、そこで出た意見をサービス向上に活かすことができるよう検討しています。	参加メンバーは要件を満たし、年6回開催している。議題は身体拘束の事例報告、介助方法の質疑応答、服薬の管理方法、消防訓練、外部評価、ホームページのリニューアル報告等となっている。家族の参加を多くするためにアンケートを実施し、希望の曜日や時間の確認を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員に運営推進会議に参加して頂き、現状を把握して頂いています。	年1回、介護相談員の受入れを行っている。地区の連絡協議会に2ヶ月に1回参加している。その際に、地区の現状を確認している。介護保険更新時に市との担当者で連絡を取っている。開設予定の小規模多機能型居宅介護事業所に向けて市との連絡調整を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1名の方に対し、車椅子からの転落予防のためのベルトを使用しています。もちろんご家族の了承も取っており、落ち着かれている場面では、ベルトを外し、ゆったりとした体勢で過ごしていただけるよう配慮しています。	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、やむを得ず身体拘束を行う場合は家族等へ「緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書」をもとに、連絡説明を行い、十分な理解と同意を得ようになっている。身体拘束解除を目標として継続的カンファレンスを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ちょっとした声かけ等にも気を配るようにしています。また、県が開催する虐待の研修会に職員を参加させる予定もあり、学んだことを全職員に落とし込み、虐待についての知識を向上させていきたいと思ひます。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について勉強する機会を設け、必要な場面があれば、対応出来るよう体制を整えていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する時は、必ず2名で対応し、必要に応じて、職種ごとに説明を行い、理解しやすいように説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の窓口を設置しています。また、運営推進会議の際にも、要望・意見があれば、その都度伺っています。	利用者・家族は意見を職員に直接伝えることが多い。その内容は申し送りや個人記録に記入し、職員が共有している。家族の要望を受けて、利用者の馴染みの美容師が事業所を訪問して散髪ができるよう依頼し実現している。また、事業所のより良い運営のために家族向けにアンケートを実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議や施設会議の際には、役員等にも参加していただき、意見を聞く機会を設けています。	会議や申し送りの場で、誤薬を防ぐ為の方法等について話し合い、職員の意見を取り入れている。物品購入や人事の希望を反映している。管理者は年2回職員に個人面談を実施し、目標や振り返り、要望等の意見を聞き出し、内容によっては法人内で検討することもある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自己評価する機会を設けています。半期ごとの反省を踏まえて、新たな目標設定を立てています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部署会議の際に、研修する機会を設けるように心がけています。また、法人内でも自主研修等を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、交流する機会を設けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	こまめに状況の確認を行うとともに、積極的にコミュニケーションをとるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめにご家族とは連絡を取り、不安や要望を聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	少しでも早く環境に慣れていただくために、他の入居者を交え、コミュニケーションをとるようにしています。入居からの1ヶ月間は、本人を知ることから始め、以降のケアプランに活かすことができるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の中には、同じ職員と感じている方もおられるため、喜怒哀楽を共感することで、信頼関係を築くことができるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる限り、面会に多く来ていただけるように声を掛けています。また病院受診や外出にも可能な限り、ご家族にも付き添っていただけるように声を掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から通われている美容室や、馴染みの場所にお出かけできるように、できる限りの支援をしています。	利用開始前にヒヤリングを行い、生活歴等から馴染みの人や場所の把握を行っている。老人会へ参加できるよう支援したり、家族との電話のやりとりや自宅付近へのドライブ等を行い、関係が途切れない支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように声掛けをしています。食事の際の座席配置も人間関係を考慮した配置にしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設や病院への面会を行い、随時相談にも応じています。また、訃報があった場合は、お通夜等に参列しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに対して、担当者を決め、希望や問題点の把握に努めています。確認が困難な場合は、御家族に確認をしています。	利用者ごとに職員の担当者を決めて、思いや意向の把握を行い、職員間で共有を行っている。居室内に利用者がいる時に、1対1の時間を持っており、利用者の一日の流れを把握している。職員は利用者の表情・行動から、本人の意向を把握し支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴等をフェイスシートで把握し、職員全員で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があれば、必ず申し送りで情報の共有を行い、別のユニットにも情報を申し送っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、事前に現場職員からの情報をもとに、ケアの見直しをしています。	ケアマネジャーが利用者や家族と会話したり連絡を取り、要望を聞き介護計画を作成しており、作成後は説明し同意を得ている。短期目標、長期目標の設定からモニタリングを行い、職員が日々のケアの中で気づきを記録して、サービス担当者会議で意見交換を行い、次の介護計画に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何かあれば個別記録に記入するようにしており、申し送りを利用して、情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している認知症対応型通所介護事業所とのレクリエーション等を通じて交流をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時に参加していた自治会や老人会への参加をしている方もおられます。事業所としては、今のところあまりありませんが、自治会への働きかけは随時行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医には概ね2週間に1回、往診に来ていただいています。急変時にはいつでも連絡が取れる体制にしています。	家族の受診支援が難しい場合は、同意のもと、2週間に1回協力医療機関の往診を受けている。かかりつけ医の場合も、事業所が送迎を行っている。状態や薬の変更時にはその都度連絡を行っている。月1回の手紙や来訪時には利用者の状態を家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者や主任、ユニットリーダーを中心に、随時看護職員との連携をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週に1回は面会を行い、その際には医師や看護師、地域連携室との情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今までは、看取りの実績はありませんでした。今回、看取りの可能性のある方がおられるため、指針等の見直しを行い、再作成しました。	今後、事業所での看取りが考えられるため、「看取り介護に関する指針」及び「看取り介護についての同意書」の作成と見直し、整備を行っている。職員に対しても看取りを行う場合の介護の仕方や心理的不安をなくすために、資料等を集め研修を行う予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルの作成をしています。夜間の勤務体制が変更となったため、不意の事態にも対応できるように分かりやすいフローチャートを作成しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は毎月実施しています。入居者にも参加しやすいように、訓練の際は質問コーナーを設け、わかりやすいように説明させていただいています。年に2回は施設合同での訓練を行っています。	毎月消防計画に基づき、夜間想定含む通報・消火・避難・総合訓練を実施している。長期保存のご飯物と汁物、5年保存の水を備蓄している。事業所内の避難場所は職員に周知しているが、地域の避難場所は周知されていない。また、地域の訓練への参加はない。	災害時には近隣の協力が必要であることから、訓練に参加してもらう等の協力体制の確立が求められる。また、地震や水害等の災害時の地域の避難場所についても、確認しておくことが期待される。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な言葉遣いで対応出来る様に声を掛けあっています。また、職員間でのヒソヒソ話は控え、利用者様に不安感を与えないようにしています。	利用者が不快に感じないように職員同士で注意を払い、利用者に合わせた声掛けを行っている。利用者の個人情報は所定の場所に保管を行っている。職員採用時、守秘義務の誓約書を取っている。利用者の写真使用については、個人情報取扱同意書に同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けは常に疑問形で問いかけ、本人が自己決定出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、本人の意向に沿った支援を行っています。あまり横になる時間が多くならないように、歌やレクなどを行い、楽しんで生活できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容や行きつけの美容室で散髪をしていただいています。中には、ご家族や知人の方が、散髪をして下さるケースもあり、散髪場所の提供もしています。洋服はできるだけ本人に選んでいただくようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な皮むきなどの調理手伝いをしています。また、下膳やテーブル拭き等の手伝いもしていただいています。	嗜好調査を行い、法人の管理栄養士が献立を作成し、各ユニットで調理している。10時と15時には水分補給やおやつを楽しんでいる。皮むきや下膳等、可能な利用者には手伝ってもらったり、月1回は利用者と共におやつを作っている。外出の際には外食や弁当購入の機会があり、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立で食事の提供を行っています。食事量や水分量は毎日チェックし、摂取量が増えるように提供内容の見直しを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせた口腔ケアの支援を行っています。また、定期的に歯科往診を受けていただいたり、受診を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で排泄パターンを把握し、必要に応じた支援を行っています。	日中はリハビリパンツの利用者が多い。入院時に排泄の自立が低下した利用者も、退院後に改善した事例がある。排泄・水分チェック表ではトイレ使用、ポータブルトイレ使用、パッド使用、拒否等の形態別で記入を行い、利用者の様子を見ながら排泄の自立に向けたトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時には牛乳を飲んでいただいています。また、便秘気味の方に関しては、乳製品等の購入を行い、提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	できる限り、本人の希望に合わせて提供を行うようにしています。何日も入浴しない日が続かないように、誘導方法の工夫をしています。	入浴日は特に決めておらず、2日に1回は入浴出来るように支援している。職員は浴室や浴槽の温度管理を行い、入浴を拒む利用者には、時間をおいて声掛けや足浴を支援している。車椅子の利用者も湯船に浸かれるよう努めており、同性介助の要望にも沿いながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り、メリハリのある生活を送って頂けるように就寝介助等を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をファイルに綴じ、いつでも回覧できるようにしています。疑問に感じたことは、医師や薬剤師等に確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や掃除、食事の準備・片付け等をできる範囲でお手伝いして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くにある自宅や買い物など、ご希望があれば支援しています。	利用者の希望や職員が声かけを行い、買い物の希望に応じて近隣の商店へ外出支援を行っている。また、外出週間を決めて、数グループに分かれて外出支援を行っている。車椅子の利用者も一緒に初詣、花見、公園、ピクニック、ドライブ等に出掛けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で金銭の管理を行っています。中には本人が所持していることもありますが、ご家族と連携し、金銭管理を行うようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話の支援を行っています。携帯電話を所持されている方は1名おられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に換気を行い、室温や湿度にも配慮しています。	職員は利用者の状態に応じて、テレビや音楽の音量を調節している。季節に応じた飾りつけや利用者による生け花で季節感を感じられるよう工夫している。利用者はソファや椅子に腰掛けテレビやカラオケなどを楽しんでいる。共用空間については、職員が毎日掃除を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり過ごしていただけるようにソファを配置しています。談話をされたり、唄を歌ったりされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れ親しんでいる物を持ち込んで頂いており、今までの生活同様の空間作りをしています。	エアコン、洗面台、クローゼット、コーナーのカウンターは備え付けである。居室内への持ち込みの制限はなく、テレビ、植物だけでなく、めだかの水槽を置き飼育を行っている利用者もいる。利用者の動線を考えて家族と話し合いながら部屋を整備している。居室内のカーテンは防災で利用者や家族の好みの色となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには目印等をし、わかりやすいように工夫をしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270103932		
法人名	株式会社ヒューマン・ネットワーク		
事業所名	介護支援センターながさき グループホーム桜木 3階		
所在地	長崎県長崎市桜木町3番25号		
自己評価作成日	平成26年7月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

少しでも笑顔を増やしていただくために、歌レク等を多く取り入れるようにしています。 1階の認知症対応型デイサービスとの交流会を行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をリビングや制服、社用車に掲示しており、職員がいつでも確認できるようにしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ参加し、行事等の案内をさせていただいています。また地域の老人会の担当者宅を訪問し広報紙を配布しています。秋には祭りを開催し、地域の活性化を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や自治会を通して、地域の方に自社サービス等の説明をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に会議を開催し、入居者の状況、行事等の報告、参加依頼を行っています。また、参加者の方には議題毎に意見を聞く時間を設け、そこで出た意見をサービス向上に活かすことができるよう検討しています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員に運営推進会議に参加して頂き、現状を把握して頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1名の方に対し、車椅子からの転落予防のためのベルトを使用しています。もちろんご家族の了承も取っており、落ち着かれている場面では、ベルトを外し、ゆったりとした体勢で過ごしていただけるよう配慮しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ちょっとした声かけ等にも気を配るようにしています。また、県が開催する虐待の研修会に職員を参加させる予定もあり、学んだことを全職員に落とし込み、虐待についての知識を向上させていきたいと思っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について勉強する機会を設け、必要な場面があれば、対応出来るよう体制を整えていきたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を締結する時は、必ず2名で対応し、必要に応じて、職種ごとに説明を行い、理解しやすいように説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情処理の窓口を設置しています。また、運営推進会議の際にも、要望・意見があれば、その都度伺っています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議や施設会議の際には、役員等にも参加していただき、意見を聞く機会を設けています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回自己評価する機会を設けています。半期ごとの反省を踏まえて、新たな目標設定を立てています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	部署会議の際に、研修する機会を設けるように心がけています。また、法人内でも自主研修等を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、交流する機会を設けています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	こまめに状況の確認を行うとともに、積極的にコミュニケーションをとるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめにご家族とは連絡を取り、不安や要望を聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	少しでも早く環境に慣れていただくために、他の入居者を交え、コミュニケーションをとるようにしています。入居からの1ヶ月間は、本人を知ることから始め、以降のケアプランに活かすことができるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の中には、同じ職員と感じている方もおられるため、喜怒哀楽を共感することで、信頼関係を築くことができるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる限り、面会に多く来ていただけるように声を掛けています。また病院受診や外出にも可能な限り、ご家族にも付き添っていただけるように声を掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から通われている美容室や、馴染みの場所にお出かけできるように、できる限りの支援をしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように声掛けをしています。食事の際の座席配置も人間関係を考慮した配置にしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設や病院への面会を行い、随時相談にも応じています。また、訃報があった場合は、お通夜等に参列しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりに対して、担当者を決め、希望や問題点の把握に努めています。確認が困難な場合は、御家族に確認をしています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴等をフェイスシートで把握し、職員全員で共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	変化があれば、必ず申し送りで情報の共有を行い、別のユニットにも情報を申し送っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、事前に現場職員からの情報をもとに、ケアの見直しをしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	何かあれば個別記録に記入するようにしており、申し送りを利用して、情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している認知症対応型通所介護事業所とのレクリエーション等を通じて交流をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	在宅時に参加していた自治会や老人会への参加をしている方もおられます。事業所としては、今のところあまりありませんが、自治会への働きかけは随時行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医には概ね2週間に1回、往診に来ていただいています。急変時にはいつでも連絡が取れる体制にしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者や主任、ユニットリーダーを中心に、随時看護職員との連携をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	週に1回は面会を行い、その際には医師や看護師、地域連携室との情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今までは、看取りの実績はありませんでした。今回、看取りの可能性のある方がおられるため、指針等の見直しを行い、再作成しました。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルの作成をしています。夜間の勤務体制が変更となったため、不意の事態にも対応できるように分かりやすいフローチャートを作成しました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は毎月実施しています。入居者にも参加しやすいように、訓練の際は質問コーナーを設け、わかりやすいように説明させていただいています。年に2回は施設合同での訓練を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な言葉遣いで対応出来る様に声を掛けあっています。また、職員間でのヒソヒソ話は控え、利用者様に不安感を与えないようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けは常に疑問形で問いかけ、本人が自己決定出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り、本人の意向に沿った支援を行っています。あまり横になる時間が多くならないように、歌やレクなどを行い、楽しんで生活できるように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容や行きつけの美容室で散髪をしていただいています。中には、ご家族や知人の方が、散髪をして下さるケースもあり、散髪場所の提供もしています。洋服はできるだけ本人に選んでいただくようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な皮むきなどの調理手伝いをしています。また、下膳やテーブル拭き等の手伝いもいただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が立てた献立で食事の提供を行っています。食事量や水分量は毎日チェックし、摂取量が増えるように提供内容の見直しを行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせた口腔ケアの支援を行っています。また、定期的に歯科往診を受けていただいたり、受診を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表で排泄パターンを把握し、必要に応じた支援を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時には牛乳を飲んでいただいています。また、便秘気味の方に関しては、乳製品等の購入を行い、提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できる限り、本人の希望に合わせて提供を行うようにしています。何日も入浴しない日が続かないように、誘導方法の工夫をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	できる限り、メリハリのある生活を送って頂けるように就寝介助等を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報をファイルに綴じ、いつでも回覧できるようにしています。疑問に感じたことは、医師や薬剤師等に確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や掃除、食事の準備・片付け等をできる範囲でお手伝いして頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くにある自宅や買い物など、ご希望があれば支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所で金銭の管理を行っています。中には本人が所持していることもありますが、ご家族と連携し、金銭管理を行うようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話の支援を行っています。携帯電話を所持されている方は1名おられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定期的に換気を行い、室温や湿度にも配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくり過ごしていただけるようにソファを配置しています。談話をされたり、唄を歌ったりされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が使い慣れ親しんでいる物を持ち込んで頂いており、今までの生活同様の空間作りをしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには目印等をし、わかりやすいように工夫をしています。		